



ナス台木品種の黒点根腐病に対する感受性



写真1 ナス黒点根腐病の症状



写真2 根の褐変とその表面の小黒点



写真3 ナス黒点根腐病発生圃場に植えた台木品種
(左：‘トナシム’、右：‘台太郎’)

表1 ナス台木品種の黒点根腐病に対する感受性

品種名	根の褐変
とげなしつのみなす	-
トルバム・ピガー	-
トレロ	-
トナシム	-
台太郎	+
台二郎	+
イタリヤ赤茄子	+
カレヘン	+
アシスト	+
ミート	+
茄の力	+
耐病VF	+
ナクロス	+

- : 褐変なし、+ : 褐変あり

2006年6月、県内の津野山地区において、雨よけ栽培のナスに葉が黄化して萎れ、ひどい場合には株全体が枯死する障害が発生しました(写真1)。症状株を引き抜くと根の一部は褐変し、表面に多数の小黒点が観察されました(写真2)。このような症状は、過去に長崎県などで発生が見られていたものとよく一致し、*Colletotrichum coccodes* という糸状菌によるナス黒点根腐病と診断されました。しかし、本病の防除法については詳しくわかっていませんでしたので、ナス台木品種の本病に対する感受性について検討しました。

表1に示した13種類のナス台木品種に病原菌を接種し、その30日後に根の褐変の有無を調査しました。その結果、‘台太郎’、

‘台二郎’、‘イタリヤ赤茄子’、‘カレヘン’、‘アシスト’、‘ミート’、‘茄の力’、‘耐病VF’、および‘ナクロス’では根の褐変が見られましたが、‘とげなしつのみなす’、‘トルバム・ピガー’、‘トレロ’および‘トナシム’では褐変が見られませんでした(表1)。

また、ナス黒点根腐病の発生圃場に‘台太郎’と‘トナシム’を植えたところ、前者では根が著しく褐変しましたが、後者では褐変が見られませんでした(写真3)。

以上の結果から、黒点根腐病に強い台木品種を選択することにより、本病の被害を回避できると考えられました。

(病理担当 矢野和孝 088-863-4915)